

2024年度:こども園自己評価の報告書

西丘 こども園

評価項目	取り組み状況
教育・保育方針と内容	・園内研究テーマを引き続き、『違いを認め合い 共に育つ 心豊かな子ども達に～子どもの人権が主体となる活動を通して』とし、保育アドバイザー派遣研修では子どもの身体や心の発達に応じた遊びなどを学び、日々の保育・仲間づくりにつなげていった。 ・園内研究では昨年度に引き続き『からだづくり』『環境』をテーマに進めた。『からだづくり』では、春から園舎建て替え工事が開始され、園庭が使用できなくなる中でどう工夫していくか話し合い、「サーキット遊び」「リトミック」を通じて、年齢別や個々の発達段階を踏まえた動きに準じた運動遊びを充実させた。 ・「豊中市立幼保連携型認定こども園全体計画」をもとに、主体的に関わり合い、学び合う子どもの姿をめざし、指導計画の作成及び具体的な活動保障を行った。
健康支援	・園児対象とした保健指導を看護師が中心となって継続的に実施し、健康安全指導・生活習慣・食育等に関する教育保育内容の充実を図った。 ・園児一人ひとりの健康状態を把握し、感染症予防においても感染状況をこまめに更新し、保護者とこまやかな連絡を取り合うことで、園生活を健康的に過ごせるように努めた。また保健だよりは毎月発行し、時節に応じた内容や保護者が関心をもてるよう工夫をこらした。
安全指導・危機管理	・毎月当番制による施設安全点検を実施し、必要に応じて修理・改善を行う。また、遊びや散歩、食物アレルギー等マニュアルに基づき安全保育の徹底を周知する。 ・災害（地震・火事等）に対する避難訓練は毎月実施し、不審者侵入に対する訓練も適時行った。1月には地震の訓練とともに、幼児クラスは防災について自分の身を守ることの必要性を考える機会を持つように取り組んだ。隣接している新千里消防署と連携を図り、年に一回は消防署立会いの下、避難訓練を実施している。 ・園外保育については、安全に様々な経験を重ねていけるよう下見をし、経路確認や指導内容を確認しながら取り組んでいる。
食育の推進	・自園給食のもと、給食の過程を五感で体感する“クッキング”の機会を設け、食への関心を深めるようにした。 ・全クラス菜園計画を立て、技能員と共に菜園ミーティングも実施しながら、クッキングを工夫して行った。 ・季節に応じた食材の紹介や伝統行事食についての説明にイラストなどを用いて子ども達や保護者に関心を持ってもらいやすいよう工夫した。
子育て支援（在園児および地域）	・子ども達の日常の様子は配信アプリを通じて写真を添えて発信を行ったり、玄関掲示をしたりしてわかりやすく発信していった。 ・地域の親子のプレイルーム利用も多く、園庭が使えないにも関わらず今年度開始した「マイ子育てひろば」には多くの親子が登録されている。 発達の相談も多く、児童発達支援センターにつなげてできるだけ、不安を解消するように努めている。

インクルーシブ教育保育	・保護者と園とで友達と育ち合う姿を共有していった。 ・定期的に会議を持ち、個々の子どもの課題の明確化や具体的な実践などを交流した。 ・就学先の小学校と連携を図り、切れ目のない支援を目指している。
職員の資質の向上	・アドバイザー派遣研修や人権研修においては、自身の保育を振り返ることで保育の質に変革をもたらし、より多くの気づきが実践につながるよう具体的な研修内容に努めた。 ・保護者アンケートの結果をもとに気になる項目を明確に分析し、今後どのように向き合っていけばよいか職員間で話し合うなどして改善に努めた。 ・園内公開保育などを通して互いに気づき、学び合う機会とした。
幼保こ小中の連携・接続	・幼保こ小連絡会等において情報交換や意見交換を行った。『敬老の集い』など校区社協主催行事にも積極的に参加し、地域と共に存在するこども園としての発信を行った。 ・近隣小学校や幼稚園との交流を持ち、情報交換やつながりを持てるようにしている。
評議員会	・評議員会では小学校長・主任児童委員・NPO 法人国際交流の会とよなか・学識経験者・高齢者施設長という子どもの育成や地域の関わる委員に広く意見交換することで、園の持つ目的や重要性を改めて考えていく機会になっている。公開保育や園行事を見ていただくことで、園が取り組む園内研究について報告し知っていただく。地域状況を報告しあう中で、地域のこども園だからこそ考えていく課題についても共有しあう場となった。
その他	・大阪府立千里青雲高校と幼児教育履修生徒との交流を継続し、高校生の授業の一環として園児向けの遊びの報告をしてもらった。また、季節の植物学習に参加し、自然に触れる経験をする機会となった。

○今後取り組むべき課題（重点的に取り組むべき課題）

課 題	具体的な取り組み方法
環境ガイドラインを生かした保育実践	毎年、環境ガイドラインの項目チェックを通して、各クラスが教育・保育を振り返り、子どもが主体となる保育について具体的な手立てや子どもにとっての保育環境を定期的に見直し、よりていねいな保育教育を目指していく。
様々な価値観の中で、多様性について考える	インクルーシブ保育の中で、性の多様性や家族の在り方など、当たり前という価値観を見直し、様々な視点や側面から物事をみていく必要性を職員で共有していく。

令和 7 年（2025 年）3 月 31 日

豊中市立 西丘こども園

園長名 住川 直美